

ブドウやイチゴの栽培盛んな公園58カ所、緑豊かな環境

東浦町

愛知県東浦町は、知多半島北東部に位置する。名古屋市に近く自然が豊かなことから住みやすいまちとして知られる。人口は約5万人。第6次総合計画に基づき2025～27年度までの実施計画に取り組む、都市基盤整備や産業振興を展開している。

東浦町の面積は約31・1平方キロ。うち田畑が3分の1を上める。農業では稲作のほか、丘陵地でのブドウ栽培が盛んで、大粒で糖度が高く濃厚な果汁が特徴のキヨホウが特産品。毎年夏にはブドウの直売やブドウ狩りも行われるほか、摘果ブドウを使用したオリジナルクラフトビール「東浦リボンビール」や焼き菓子なども開発、販売されている。イチゴ農家も町内に点在し、冬から春にかけてイチゴ狩りも行われている。

28年度の新規就農者数を23年度比増の22人に増やし、遊休農地

を6割減の12万平方メートルに減らす目標だ。

自然環境では田園やブドウ畑に加え、計58カ所の公園があり、再整備中の於大公園では24年4月に遊具広場がリニューアルオープンし、多くの来園者でにぎわっている。現在は、ふれあいファミリー広場を整備している。おもしろサイクル広場やバーベキュー広場の整備を進め公園のにぎわい創出を図る。

町西部の緒川新田地区に知多半島道路・東浦知多インターチェンジがあり、刈谷まで15分程度、名古屋まで30分程度でアクセスできる。鉄道では町西部に名鉄、町東部にJRがあり、通勤・通学に便利なまちだ。

充実した住環境を生かし、市街地整備にも取り組む。森岡南部地区での土地区画整理事業に向け、住民説明会を開くなど準備を進めている。

摘果ブドウ使用の「東浦リボンビール」



また、新産業創出では、ウェルネスバレー地区（あいち健康の森公園とその周辺）の医療機関などと連携しヘルスケア分野の産業振興やスタートアップ支援を推進する。愛知県企業庁、大府市と連携し企業誘致に必要な用地造成事業も検討を進めている。